

## 中国から見た米国の新軍事戦略

人民網（国際）20110214 15:45

ソース：瞭望新聞週刊

米国は、アジアの将棋盤上で、専らイラク及びアフガニスタンへの関心から、将棋盤全体の戦略を見直しつつあるように見える。これは、米国大戦略の最近の動向である。

2011年2月8日、米国国防부는、2011年米国国家軍事戦略を発表し米国の軍事的指導力の再定義を行った。これは2004年以降、初めて発表した米国の新たな軍事戦略である。新戦略は、米軍の4つの軍事目標と4つの役割を提議するとともに、米国軍事戦略におけるアジア地区の重要性を特に強調した。

24ページにわたる新たな「国家軍事戦略」を見ると、米軍の将来の発展方向に4つの変化がみられる。

その一、米国は、現在維持している世界の軍事覇権の重心を欧州からアジア地区に移した。米国は、世界の覇権を握って以来、欧州が世界覇権維持のための戦略重心であった。特にそれが強調されたのは冷戦時期であり、米国とソ連の覇権争いの主戦場は欧州であった。衆知の通り“鉄のカーテン”が欧州の大地に引かれていた。米国とソ連の軍事的対抗は、欧州安全保障の主導権争いに他ならなかった。冷戦終結後、米国は唯一の超大国となった。しかし米国の覇権は不安定であった。米国は、ソマリアに出兵したかと思うと、バルカンに介入し、対テロ戦争でビンラディンをとらえようとしたかと思うと、ネットワーク戦争を戦った。すなわち米国は、覇権維持のための戦略重心を決定することができなかった。

オバマ大統領が就任後、米国は「国家安全戦略報告」、「四年ごとの防務評価報告」（注：QDR）及び「核態勢報告」等を発表し、一步一步覇権維持のための戦略重心の変更を行った。今回米国が発表した新たな軍事戦略報告は、アジア地区への強い“関心”を表明しており、いわば戦略重心を欧州からアジアに移したことを示している。このことは又、将来のある時期まで米国にとってアジアが覇権維持の重心となることを示している。今後米国がアジア問題に介入する頻度と強度は増大する。そしてそれがアジア地区の軍事情勢に重大な影響を与える。

その二、米国がアジア地区で採用する戦術は、“点”から“面”を制圧する方向に向かうであろう。オバマは、大統領選挙のとき、“イラク問題”を迅速に解

決すると述べた。就任後、オバマは、イラクとアフガンからの撤兵の時刻表を提出した。続いて、米国とロシアは、新たな核軍縮条約を締結した。いわば、米国は、アジアにおいてすでに外部工作を完了しており、また内部の面倒な問題を解決している。アジア地区においては、どの要素（国）が米国の軍事的な関心の中心であるか、米国は、未だ肯定できる判断を下すことができない。当然中国は、米国が関心を持つ主要な要素（国）である。中国、北朝鮮、インド、日本、韓国、ASEANなど、どの要素（国）が米国のアジア掌握に必要な重心であるか、現在は不明確である。

米国の新国家軍事戦略報告を見ると、米国がアジア地区全体を一つの将棋盤として見ていることが分かる。この観点から見ると、米国は、アジアの将棋盤上で、専らイラク及びアフガニスタンへの関心から、将棋盤全体の戦略を見直しつつあるように見える。これは、米国大戦略の最近の動向である。当然、新軍事戦略は、いくつかの方面に特に大きな関心を寄せている。それは例えば、中国の軍事力発展の方向、北朝鮮の核兵器問題、及び ASEAN 諸国の軍事力近代化の問題等である。その中で中国の軍事力発展の問題が最大の関心事になっている。したがって中国軍は、将来国際舞台での軍事行動において米国から大きな制約を受ける可能性がある。中国の軍事的影響力を縮小すること、及び中国軍の動きを規制することは、将来米国が中国の軍事力に対して採用する重要な措置となろう。

その三、米国のアジア地区における戦力構築は“縦”方向から“横”方向に発展している。第二次大戦後、米国は、多くの軍事同盟を立ち上げた。冷戦期間、この軍事同盟は、米国とソ連が対抗するうえで重要な働きをした。したがって米国は同盟を極めて重視している。しかし、米国が立ち上げた軍事同盟の構成から見ると、欧州に立ち上げた NATO は、多国間軍事同盟であり、米国がアジア地区で立ち上げた軍事同盟は、基本的に 2 国間軍事同盟である。冷戦後、米国は、アジア地区に多国間軍事同盟を立ち上げることを試みた。しかし終始その目的を達成することはできなかった。これに対して、米国は、アジア地区において 2 国間軍事同盟の強化を怠ることはなかった。過去 20 年以上の間、米国は、日米、韓米等の軍事同盟を不断に強化した。

米国の新国家軍事戦略から見ると、米国は、かつての一貫して 2 国間軍事同盟を強化する方法を変更し、アジア地区の同盟諸国間の軍事協力を重視、強化し、盟友の力を発揮させ、覇権を維持しようとしている。このことは、日本と韓国の間での軍事協力の強化に特に表れている。2010 年、米韓日 3 国は、安全保

障に関する一連の協力に合意した。今回米国が正式文書の形式でこの関係を規定したことによって、韓国と日本の軍事協力関係は一層強固になるであろう。同時にまた、米国は、この精神に従って東南アジアの軍事問題への関わりを強め、ASEAN 諸国の掌握を強化し、ASEAN 諸国の軍事活動を米国の覇権維持に有利になる方向に持って行こうとしている。

その四、米国は、戦力を使用する上で、単独行動から同盟国を重視する方向に変更している。米国は、新国家軍事戦略において、4つの軍事目標を提議した。すなわち、“テロリズムへの対抗、侵略の阻止撃破、国際及び地域安全の強化及び未来型軍隊の建設”である。この4つの軍事目標から見ると、米国は同盟国への依存を強めるであろう。新戦略は、“特に宇宙とネットワーク空間において、有効に行動できる能力がますます重要になる”と述べている。過去の経験から見ると、宇宙とネットワーク空間において採るべき行動は、“有効”でなければならず、これは国際協力がなければ不可能である。米国は、新国家軍事戦略のなかで同盟国との関係を深化するよう強調している。したがって同盟は、米国の将来の軍事戦略のなかで重要な位置を占めるであろう。

同盟国との関係を深化させるうえで、米国は、新たな措置を採る可能性がある。例えば、米国が一部の新たな国際行為体に某種の同盟関係を構築することである。歴史的に見ると、米国の国際問題に対する行動は、すべて国家利益に基づいている。アジア安全保障の枠組構築と覇権維持の過程において、米国は、同盟重視の方針の下に、ある国際的な多国籍企業、あるネットワーク会社と同盟を結ぶ可能性が極めて高い。これは、将来の米国軍事戦略発展の新たな趨勢であり、米国軍事力の将来発展の新たな動向である。

以上